



IO-Link

既存システムのまま IO-Linkを導入できる データスプリッタ



IO-Linkアクセサリ



PLC・PLCプログラム・制御系配線
に変更を加えることなくIO-Link
の導入ができ、IoT化が可能

IO-Linkセンサからのデータを従
来システム側と上位のIoT/クラ
ウドシステム側に分離し、迅速に
提供するため、効率的な診断や
プロセス監視に活用が可能



フィールドでの現状

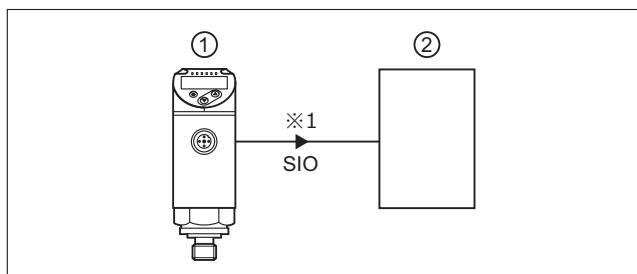
古い設備では、センサからのアナログまたはデジタル出力信号は、コントローラの標準的な入力カードに直接送信され、さらに処理されます。ifmの各種センサはIO-Link対応のものが多く、従来のシステムでこれらセンサを使用する場合、IO-Linkデータを活用することができず、従来のセンサと同じ機能(SIOモード)のみ使用するしかありませんでした。

将来のメリットを現代に利用

IO-Linkデータスプリッタは、以前SIOモードで運用されていた従来型システムそのまま、プラントに影響しない独立した監視が可能になります。データスプリッタは①従来のコントローラ関連の出力信号と②測定値やセンサデータなどのIO-Linkデータに分離することができ、①コントローラ関連の出力信号は、プログラムや構成を変更せずにSIOモードでコントローラの入力に送信されます。さらに②測定値やその他のセンサデータは、IO-Link経由で上位システム(Smart Observer、クラウド)に送信することができます。診断やセンサのパラメータ設定は、LR device設定ソフトウェアと適切なIO-Linkマスタによって行うことができます。

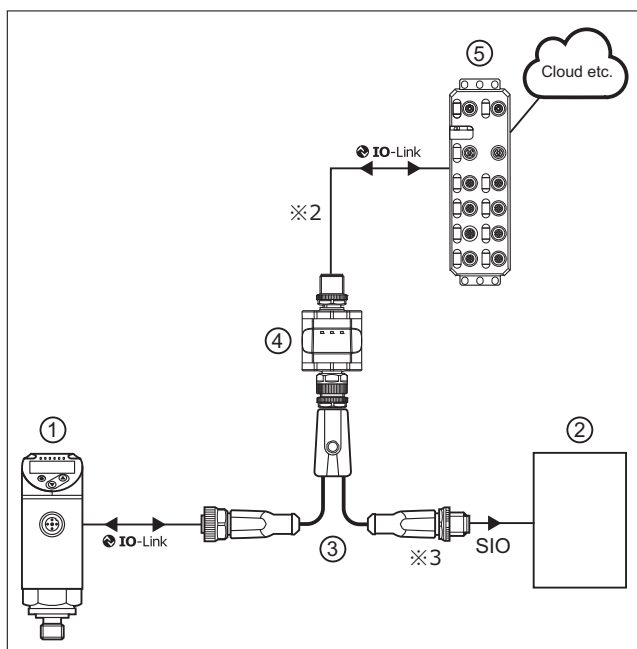


IO-Linkデータスプリッタを導入する前の 従来型センサシステム



※1 デジタルもしくはアナログ信号(SIOモード)でデータ送信
IO-Link機能は使用せず

データスプリッタを使用し、システム統合した場合



※2 データスプリッタでセンサの測定値やその他データをIO-Link
通信を経由して上位側へ送信、遠隔監視、プロセスの診断に
活用可能

※3 機器構成やプログラムの変更をすることなく、従来通りの
センサデータを送信

- 1) センサ/IO-Linkデバイス
- 2) PLC / コントローラ
- 3) Y型接続ケーブル
- 4) IO-Linkデータスプリッタ
- 5) IO-Linkマスタ

技術データ

IO-Linkデータスプリッタ	コード No. E43406	コード No. E43410
	PNP	NPN
使用電源電圧範囲	[V]	DC18~30
逆接続保護		○
短絡保護		○
消費電流	[mA]	< 30
IO-Linkデバイス 送信タイプ		COM1, COM2, COM3
IO-Linkバージョン		1.0 および 1.1
IO-Link適合規格		IEC 61131-9
SIOモード		-
マスタポートクラス		A/B
使用周囲温度	[°C]	-25~60
保護構造		IP 67
材質		ハイグレードステンレス (316L/1.4404), CW614N, PA, PBT, FKM; シール部 FKM

アクセサリ

タイプ	仕様/説明	コード No.
	取付け用クリップ	E89208
	IO-Linkマスタ スタンダードライン, PROFINET, 4ポート	AL1100
	IO-Linkマスタ スタンダードライン, PROFINET, 8ポート	AL1102
	IO-Linkマスタ スタンダードライン, EtherNet/IP, 4ポート	AL1120
	IO-Linkマスタ スタンダードライン, EtherNet/IP, 8ポート	AL1122

コネクタ

タイプ	仕様/説明	コード No.
	Y分岐, M12コネクタ 2 m, 黒, PURケーブル	EVC843